

たきいNOW

 関西医科大学附属滝井病院

病院理念

あぐみ
 慈仁を心の鏡とした患者本位の病院

たきいNOWとは？

地域の密様に、滝井病院の「いま」をお伝えし、当院が提供する医療への関心を高めていただくことを目指す情報誌です。



創刊にあたって



院長 岩坂 壽二

母は胃が弱く、真夜中、吐血しました。小学校3年生の頃です。父が近所の開業医に往診を頼みに行き、私は「おかあちゃん大丈夫、痛い？」と顔を撫でる以外にはありませんでした。情けなくて涙がポロポロ落ちて来ました。それが医師になる動機であったのかほんやりとしか憶えていません。母は医師に成ることを望んでいました。理由は、私は終戦の年に生まれたものですから、戦争が怖かったのでしょう。最前線でも弾の当たる確率の低い医師を望んでいました。そんな母も85歳を超えたころ他界しました。最近、60数年生きてきた私は思い巡らすことがあります。それは、戦後日本を再建し、豊かさを実感させていただいた高齢になられた方、その意志を継いで闘われ中年を迎えられた方々の愛に包まれた健康な生活に少しでも役立つ事が、豊かさのレールを進んできた戦争を全く知らない世代、私が出来る恩返しかなと思っています。愚にもつかないことを記しましたが、こんな想いが「滝井NOW」に染まればと願っています。

みなさん、リエゾン精神医療ってご存知ですか、リエゾンとはフランス語で、お料理のつなぎのことです。バターとカククリームを加えることでまろやかな味につながる日本料理で言えば隠し味にあたる言葉です。殺伐とした現代社会、医療の現場においても同じような光景を時には目にします。平成22年、関西医科大学附属滝井病院は医療のなかに、精神科の主導で患者さんの苦悩、不安、背立ちを少しでも軽くするためにリエゾン精神医療を積極的に導入しました。

例えば、西日本で最初に開設された救命救急センターには自殺行為をしてしまった患者さんが多く運ばれてきます。傷を治療し、命は救えても、患者さんに潜む心の傷、衝動を癒すことは精神科医により可能となります。

現在、高度救命救急センターに精神科医を配置するとともに、全病棟に精神科医が介入し、また

ガンがもたらす苦痛を除く緩和医療の認定医、ペインクリニック（痛みの外来）が診療に介入し、“豊かで、出来るだけ不安のない社会復帰を目指す”医療を病院の風にしたいと思っています。そのために、健康科学センター、総合リハビリテーションセンターが食事療法や正しい運動の方法、五感を正常に作動させるためのリハビリを行っています。

もちろん、高度先進医療の導入も積極的に行っています。本年度は血管外科部門に近畿で数施設しかないレーザーを用いた下肢静脈瘤の治療を導入します。腎泌尿器外科では、尿管結石、腎結石の除去を確実にできるレーザー碎石治療法を導入します。いずれの治療法も安全で、苦痛がなく行える利点があります。

それ以外に心臓血管病センターでは、多くの急性心筋梗塞、重症狭心症に最新・最高の治療を行い、突然死の危機を取り去り、実社会に役立つ回復を成し遂げています。肝臓病センターでは、肝がんに対するラジオ波照射によるガンの死滅に効果をあげています。また肝炎に対するインターフェロン治療の専門医も揃っています。脊椎神経センターでは、しびれや手足の運動が困難な患者さんを手術しています。手術を受ける患者さんの数は日本で一番です。

まだまだ皆様にお知らせしたいことはいっぱいあります。滝井NOWは、皆様ご自身は云うに及ばず愛しておられるご家族、ご友人の健康に役立ち、病を減らすことに少しでもお役に立てればと思っています。

かかりつけのクリニック、診療所の先生にも相談され、我々を訪ねていただきたいと願っています。また、病院に行くのは気が進まないが、健康・病気になる話を聞きたいと云うことであれば、5~6人の方でもお集まりいただければ、出前講演会を開かせていただきます。

附属滝井病院の職員911人はあなたを応援する医療機関でありたいと思っています。

特殊外来のご紹介

このコーナーでは、滝井病院の特色ある診療についてご紹介させていただきます。

お子様のアレルギーにお困りではありませんか（小児科）



● 食物アレルギーの成立と予防 ●

最近10年間で子供の食物アレルギーは2倍に増え、現代病と言われる。子供でもっとも多いのは卵、牛乳、小麦、大豆、米、ナッツ類、魚などがあり、成人になると小麦、甲殻類、そば、果物が多くの食物アレルギーの原因とされます。子供の食物アレルギーは5歳までに90%が治るとされていますが、アレルギー検査値の高い子供さんは、成人になっても治らないという報告もあります。

食物アレルギーの予防や治療はまず皮膚をしっかりと治し、食品が体内に入らないようにすることから始めます。ステロイドを嫌がる患者さんがいますが、大きな間違いで一定期間（数ヶ月から1~2年程度）ステロイドを使用しないとアトピー性皮膚炎は治りませんし、また食物アレルギーも治りません。



● 診断方法 ●

2日間入院していただき、食物負荷検査により、あらゆる種類の食物アレルギー診断を確定いたします。

● 治療 ●

- ・食物経口耐性誘導療法(経口減感作療法)
- ・重症および睡眠障害のあるアトピー性皮膚炎の患者さんには1・2週間の入院療法をお勧めしています。



● 担当医師 ●

谷内 昇一郎 小児科教授
中野 景司 小児科助教

● アレルギー外来診察日 ●

毎週月曜日・水曜日 午前9時から
木曜日・午後のみ完全予約制(要予約)

海外旅行・留学前に予防接種を(海外渡航者医療センター)



夏休みを控え、海外旅行を計画されている方もおられるのではないのでしょうか。旅行先で病気になつたときに備えて、海外旅行保険をかけて行かれる方は多くなりましたが、予防接種まで済ませていられる方はまだまだ少ないようです。たとえ短期間の観光旅行であっても、接種しておいた方が良い予防接種があります。お勧めする種類や回数は、旅行先や目的、滞在期間、年齢によって様々ですが、海外旅行が決まったら、遅くとも出発の1ヶ月前までに、当院の海外渡航外来を受診してご相談ください。

● 診療内容 ●

1. 海外渡航健康相談
2. マラリア予防内服薬処方
3. トラベルワクチン予防接種
髄膜炎、腸チフス(6月から新規開始)、A型・B型肝炎、狂犬病、破傷風、日本脳炎、風疹、麻疹、水痘、ポリオ、おたふくかぜ、ヒブワクチン、二種混合(DT)、三種混合(DPT)
4. 海外赴任前健診、赴任後健診
5. 外国語健康診断書作成(英語、中国語)
6. 渡航中の健康相談(電子メール、電話など)
7. 渡航者病の診断、治療
8. 日本に滞在する外国人の健康診断

● 担当医師 ●

西山 利正 公衆衛生学教授：日本渡航医学会理事長、外務省海外巡回健康相談事業アフリカチーム団長
三島 伸介 公衆衛生学助教：中国外国人医師免許取得
田淵 幸一郎 血液呼吸器膠原病内科助教：ザンビア国保健医療協力プロジェクトマネージャー
ほか2名

● 外来診察日 ●

水曜日を除く毎日
午前9時から正午まで(要予約)



■ 特殊外来の予約申し込みについては下記までご連絡をお願いします。

<予約センター> (06) 6993-9455 (直通)

● 平 日：午前9時30分～午後3時30分 ● 土曜日：午前9時30分～午前11時

診療科目

血液内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、消化器内科、肝臓内科、神経内科、精神神経科、小児科、外科、脳神経外科、整形外科、リウマチ科、形成外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんご科、放射線科、産婦人科、麻酔科、臨床検査科、病理診断科、救急医学科、リハビリテーション科

施設概要

高度救命救急センター、心臓血管病センター、健康科学センター、総合リハビリテーションセンター、精神医療総合センター、肝臓病センター、化学療法センター、脊椎神経センター、海外渡航者医療センター、人工透析室、こども館等付設

受付時間

初診	午前8時30分～午前11時30分
再診	開門時（午前7時）～午前11時30分
休診日	日曜日・祝日・第2、4土曜日・創立記念日（6月30日） 年末年始（12月29日～1月3日）

当院を初めて受診される方

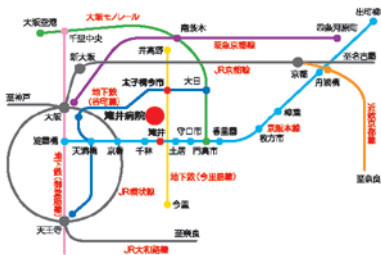
初めて受診される場合は、お近くの医療機関を受診され、診療情報を含む紹介状をご持参のうえ受診してください。紹介状をお持ちでない場合も受診いただけますが、初診の保険外併用療養費（選定療養）として、初診料の他に「2,625円」をお支払いいただく事になりますのでご了承ください。



アクセスマップ



・京阪電車「滝井駅」徒歩3分
 ・地下鉄谷町線・今里筋線「太子橋今市駅」（2番出口）徒歩6分



関西医科大学附属滝井病院

〒570-8507 大阪府守口市文庫町10番15号
 TEL 06-6992-1001 (代)
 HP <http://www.kmu.ac.jp/takii>